

## 世界中に友だちをつくる日。 “キッズトライ 2025”

**初めての福岡・宗像市で開催！**

**釜石・熊本・福岡、台湾・インドネシアの子どもたちが集い、  
タグラグビー大会や異文化体験により交流を図りました**



一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会(以下、KSE)は、2025年8月に、国際交流プログラム『キッズトライ 2025』（第6回）を福岡県宗像市で開催しました。

日本の3地域から22名、海外2か国から23名の小学生5～6年生が集まり、タグラグビー大会や異文化体験などにより交流を図りました。

キッズトライは、国内外の子どもが参加するタグラグビー大会(混成チームで対戦)を中心に、自然文化の共同体験イベントを組合せた異文化体験型の国際交流プログラムです。2018年夏に『釜石キッズトライ』としてスタートし、昨年度(第5回)は初めての海外開催で、釜石・熊本・福岡・広島の子供たちが海を越えて台北市を訪れました。今年からは日本とアジア諸国との交流拠点である九州に開催場所を移し、機能・施設が充実した宗像市のグローバルアリーナを会場としています。

KSEは、スポーツを介して子どもを中心とした国内外の人々との交流の場を創り、子どもたちの成長や地域の活性化の一助にしたいと考えています。

キッズトライでは、日本各地と海外の小学生世代を対象とし、多くの子どもたちが馴染みやすく“言葉の壁”を越えてプレーできるタグラグビーをメインの交流手段として、次世代のグローバル・リーダーの育成(カルチャーインテリジェンスの獲得機会の提供)を図ります。



〈本ニュースリリースに関するお問い合わせ〉

一般社団法人 子どもスポーツ国際交流協会

向山 昌利 (代表理事)

info@tkse.org

## 【 2025 年度の開催概要 】

## 活動名称・実施の体制

- ・活動名称 : キッズトライ国際交流プログラム 2025 (略称 : キッズトライ 2025)
- ・主催 : 一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会 (略称 : KSE)
- ・運営 : キッズトライ 2025 企画運営チーム

## 《後援》

台北経済文化代表処  
 福岡県  
 宗像市  
 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会  
 熊本県ラグビーフットボール協会

## 《協力》

玄奘大学  
 台北市大同区太平国民小学  
 台北市大同区延平国民小学  
 新北市板桥区溪州国民小学  
 インドネシアラグビー協会  
 釜石ラグビー応援団  
 サニックス・アカデミー  
 大塚製薬

## 《協賛》

ストックウェザー株式会社  
 株式会社ビジネスブレイン太田昭和  
 株式会社ファイナンシャルブレインシステムズ  
 東洋証券株式会社  
 株式会社セラマアシスト  
 東京エレクトロン九州株式会社  
 元坤運動文創産業  
 ハイコムウォーター株式会社  
 株式会社笠谷工務店  
 白鷺電気工業株式会社  
 株式会社ラック  
 サイバートラスト株式会社  
 共栄船渠株式会社  
 ECC 外語学院  
 シン・エナジー株式会社  
 MYM International 株式会社  
 YASKAWA 未来クラブ  
 シャボン玉石けん株式会社  
 特定非営利活動法人 スクラム釜石

## 開催日程・場所

- ・2025年8月3日(日)～5日(火) 2泊3日  
 ※8/2(土)と8/6(水)は遠隔地から参加の場合の移動日
- ・宗像市 グローバルアリーナ

## 参加者・プログラム内容

- ・キッズタグラグビー大会、体験学習などのイベントにより異文化理解や国際交流を図る。
  - －キッズタグラグビー大会 : タグラグビー(しっぽ取り鬼ごっこ)の混成チームをつくり、異なる言語で考え協力しながら予選～決勝の試合でプレー
  - －国際交流・体験学習イベント : 日本や宗像市、台湾及びインドネシアの文化・自然に触れ、様々なグループ活動を行い、コミュニケーションをとる
- ・釜石・熊本・福岡、台湾・インドネシア等で募集し、小学5～6年生の45名が参加。
  - －国内からの参加は、釜石(4名)、福岡(11名)、熊本(7名)
  - －海外からの参加は、台湾(台北市立延平小・新北市立溪州小 18名)、インドネシア(5名)  
 (※ラグビー未経験の子どもたちも参加しました)

## ・実施プログラム

- 1日目 集合(11時、グローバルアリーナ)  
 開会式(和太鼓ユニット『がま』によるオープニングアクト)  
 和太鼓演奏の体験交流(※運営『がま』)  
 宗像市の文化交流/ステージ演奏(※運営『日の里消防団和太鼓集団・霸王』)  
 混成チーム作り(6つのチームを編成、チーム名称を話し合っ決めて)  
 タグラグビー講習(ウォームアップ～実習 ※協力『安川電機ラグビー部』)
- 2日目 タグラグビー大会・予選  
 インドネシアの文化紹介(子どもたちによる踊りの披露、世界遺産など文化の紹介)  
 異文化交流(各自持参のお菓子の紹介・交換 ※お菓子はハラル対応を事前確認)  
 ウォーキンググローバル(自然体験型のオリエンテーリング ※運営『グローバルアリーナ』)  
 BBQ・キャンプファイヤー(ダンス、ゲーム)・花火などによる交流
- 3日目 タグラグビー大会・決勝  
 閉会式・表彰式～解散(12時)  
 ※運営協力『サニックス ラグビーアカデミー』、『サイバートラスト』

- 
- \* 海外からの参加者(子どもたち及び引率者)は、4日目(8/6)に「福岡観光ツアー」に参加。
  - \* 宗像市での活動の事前及び事後に、参加する国内の子どもたち向けの研修を実施。  
 事前研修(6/29に実施済み) : 顔合わせ、ネットリテラシー(協力 LAC)、英会話(協力 ECC)  
 事後研修(8/30 予定) : 交流の振り返り、ネットリテラシー(協力 サイバートラスト)、英会話(協力 ECC)

## 【プログラムを終えて】

### 主催者からのご報告、ご挨拶

#### 特任理事(キッズトライ事業担当) 濱島幸生よりご報告

- 計画通りに運営することができ、世界の子どもたちに多様なイベント/アクティビティを提供できました。
    - ・ 3か国(日本/釜石・熊本・福岡、台湾、インドネシア)から46名(男子29名、女子17名)が参加。
    - ・ 設備面が充実したグローバルアリーナで、曇天が多かったという天候面も恵まれ、安全に大きなトラブルもなく運営。
  - 子どもたちは、それぞれに様々な体験をし、いくつものトライ(チャレンジ)をしていました。
    - ・ 安心できる環境のもとで、楽しみながら異文化に触れ、初めてのことにチャレンジ。成功/失敗、意思疎通できた/分かり合えなかった、嬉しい/残念など結果はいろいろ。気づき、考え、学びあり。
    - ・ 3か国語(中国語、英語、日本語)そして3か国(台湾・インドネシア・日本)の子どもたちによる共同生活、イベント体験は、上手い/下手なことも多くありながら、達成感も得られ貴重な経験。
    - ・ みな無事に帰宅し、国内の子どもたちはオンライン事後研修(8/30)にて再会予定。
  - 今後は福岡で毎年開催していく予定です。参加地域を増やし、新たな試みや海外での開催も構想中です。
    - ・ 継続的にグローバルアリーナを利用し、参加地域を拡大させつつ、安全な運営と質の高いトライの場(イベント・アクティビティ)を創り提供していく。
    - ・ 新たな試み(体験格差の解消、宗像の自然文化体験など)に取り組む。台湾(2024年に次ぐ2回目)やオーストラリア(RWC2027との連携)での開催も構想中。
- プログラム実施中の様子を投稿しています。こちらをご覧ください。  
<<https://www.facebook.com/kidssportsexchange>>  
<[https://www.instagram.com/kids\\_sports\\_exchange](https://www.instagram.com/kids_sports_exchange)>

#### 代表理事 向山昌利よりご挨拶

このたびは、キッズトライ 2025 へご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。  
おかげさまで、日本、台湾、インドネシアの子どもたちは、タグラグビーや自然体験を通じて、異文化を肌で感じ、心を通わせる貴重な機会を持つことができました。この経験は、単なる思い出に留まらず、彼らが将来、世界を舞台に協働していくための大切な基盤となるでしょう。  
今回の「キッズトライ」が、まさに私たちが掲げる「次世代グローバルリーダーの育成」の一步となったことを、大変嬉しく思います。  
皆様の温かいご支援に、重ねて感謝申し上げます。

### 海外参加グループからのお便り

#### 台湾・溪州小校長 陳さん

釜石、熊本、福岡、インドネシアの子どもたちや中央大学の学生スタッフの皆さんと友だちになり、台湾の18人の子どもたちはとても良い異文化交流を体験することができました。子どもたちが目を輝かせながら交流を深める姿は、私たちに大きな喜びを与えてくれました。  
この貴重な経験は、子どもたちの未来の糧となり、国際的な視野を広げることになるでしょう。  
皆様のご協力に、重ねて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。  
世界中に友だちをつくらう！

#### インドネシア・代表 オディさん・アイニさん

グローバルアリーナで開催された「キッズトライ」に参加するという素晴らしい機会を与えていただき、心より感謝します。「キッズトライ」は、インドネシア、日本、台湾の子どもたちの間に、絆と友情を育む素晴らしい機会となったと確信しています。このイベントを通して、私たちは温かい歓迎を受け、この貴重な経験をいつまでも大切にしていきたいと思っています。タグラグビーというスポーツが言葉などの違いを乗り越え、子どもたちが互いの文化を学ぶ機会を作り出せることに感銘を受けました。このイベントは、多くの貴重な経験を得ることができ、インドネシア、日本、台湾の力強い架け橋となりました。今後もこのようなイベントが開催されることを願っています。そして、来年はより多くのインドネシアの子どもたちが参加し、日本と台湾の新しい友達と出会えるよう、尽力していきたいと思っています。

→ 参加した子どもたちから出来事や感想を記した作文を受け取っています。  
こちらは近日中に KSE ウェブサイト (<http://www.tkse.org/>) にて公開予定です。

### 【キッズトライ 2025 の記録】

#### 8/2(土) インドネシア・釜石グループが宗像入り



〈インドネシアグループ〉



〈グローバルアリーナ〉



〈前泊ホテルにて〉

#### 8/3(日) プログラム 1 日目



集合 11:00



開会式(和太鼓ユニット『がま』によるオープニングアクト)



和太鼓演奏の体験交流



宗像市の文化交流/『霸王』ステージ演奏



6つの混成チーム作り  
(チーム名称決め)



ラグビー講習(ウォームアップ~実習)



〈宿泊部屋、食堂での食事、大浴場〉

#### 8/4(月) プログラム 2 日目



ラグビー大会・予選



ウォーキンググローバル



インドネシアの文化紹介



#### 8/5(火) プログラム 3 日目、福岡・熊本グループは帰宅



閉会式・表彰式(12時)~解散

〈お別れの記念撮影〉



ラグビー大会・決勝



〈水鉄砲遊び〉



〈モールでショッピング〉



〈出来事や感想を作文〉

#### 8/6(水) 釜石帰途へ、海外グループは福岡バスツアー~帰国



福岡観光ツアー



〈福岡タワー〉



〈チームラボフォレスト福岡〉



〈帰国-台湾グループ〉

## 【キッズトライについて】

『キッズトライ』は、国内外の子どもが参加するラグビー大会（しっぽ取り鬼ごっこ、混成チームで対戦）を中心に、自然文化の共同体験イベントを組合せた異文化体験型の国際交流プログラムです。

2018年夏に『釜石キッズトライ』としてスタートし、昨年度は釜石・熊本・福岡・広島の子どもたちが台湾の台北市を訪れました。今年度は、グラウンドや設備が充実したグローバルアリーナで参加する子どもたちの数を増やして開催します。本プログラムは、岩手県釜石市での活動実績・ノウハウをベースとして、2025年度以降は九州地域を中心にアジアとの交流事業を展開する予定です。こうした活動の持続によりスポーツの価値を広く発信していきます。

## 【主催者の子どもスポーツ国際交流協会について】

一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会（THE KIDS SPORTS EXCHANGE、略称 KSE）は、スポーツを活用するさまざまな活動を通じて、健全な心と体を生み出し、活力に満ちた社会をつくり、スポーツが持つ価値を発信して、日本だけでなく世界中の人々が幸せな生活を獲得できる世界の実現に貢献することを目的に2009年に設立されました。子どもたちを対象とするスポーツ国際交流の企画運営と調査研究を実施しており、主に日本～タイ、日本～台湾の間での「キッズラグビー交流事業」を開催しています。

《KSE ウェブサイト》 <http://www.tkse.org/>

### 釜石キッズトライ

国内外の子どもが参加するラグビー大会を中心に、自然文化体験や被災学習コンテンツを組合せた国際交流プログラムを、釜石市にて開催。第6回から名称を「キッズトライ」に変更。

- 2018年度；第1回 <45名>  
台湾、オーストラリアから釜石に集い、三陸自然文化体験、被災学習、ラグビー大会を実施 釜石市/内閣官房東京オリ・パラ推進本部の“復興「ありがとう」ホストタウン”事業と連携
- 2019年度；第2回 <32名>  
ラグビーの縁から参加地域（熊本、台湾、日本在住フィジー）を増やし、釜石の諸団体との連携も強め企画開催、プログラムの一環として「釜石・鶴住居のまちづくりワークショップ」を実施
- 2020年度；開催見送り  
コロナ禍を踏まえ、釜石に集っての交流プログラムの開催を見送り(中止)
- 2021年度；第3回（オンライン国際交流のみ） <31名>  
ラグビーワールドカップ2019の釜石市のレガシー(伝承遺産)の活用を考え、東日本大震災から10年が経過したまちづくりに想いを込めて企画準備、オンラインで交流（釜石、台湾、広島）
- 2022年度；第4回 <24名>  
コロナ禍による制約が続く中で、国内参加地域（熊本、広島、福島）の子どもたちが釜石に集まる場を設け、釜石の地域活動推進諸団体との連携強化により開催  
台湾とはオンライン国際交流をレベルアップして実施
- 2023年度；中止  
8月の釜石開催(参加地域：台湾、南三陸、福島、熊本、広島)に向け企画準備するも、台湾側の来日が困難な状況になり中止
- 2024年度；第5回 <55名>  
台湾にて開催(5月)

### キッズラグビー交流（タイ、台湾）

- 日タイ・キッズラグビー交流  
タイの子どもたちを日本に迎えて、ラグビーを通じた交流活動を実施しています。
  - 目的：ラグビーを通じた異文化理解
  - 協力：Thai Barbarians Co. Ltd. (タイ・ラグビー関連企業)
  - 内容：ラグビー試合交流、合同合宿／ホームステイ
  - 開催年/回数：2009、2012～18、全8回
  - 場所：千葉県(NEC安孫子事業所)、茨城県(流通経済大学)
  - 参加者：タイの小学5～6年生、関東周辺の小学5～6年生
  - 期間：2泊3日
- 日タイ・キッズラグビー交流 in バンコク  
日本の子どもたちがタイを訪れ、ラグビーを通じた交流を行っています。タイのラグビー関係者の現地協力を得て開催しています。
  - 目的：ラグビーを通じた異文化理解
  - 協力：Thai Barbarians Co. Ltd. (タイ・ラグビー関連企業)
  - 内容：ラグビー試合交流、合同合宿
  - 開催年/回数：2013、2016、全2回
  - 場所：バンコク (Vajiravudh College)
  - 参加者：関東周辺の小学5～6年生、タイの小学5～6年生
  - 期間：3泊4日
- 日台・キッズラグビー交流 in 台北  
日本の被災地の子どもたちが台湾を訪れ、スポーツを楽しみ、ラグビーを通じた国際交流を行っています。
  - 目的：震災復興支援  
～ひと時でも楽しい時間を提供する～
  - 協力：ファイブワズ (台湾日本人会・ラグビー部)
  - 内容：ラグビー試合交流、合同合宿
  - 開催年/回数：2012、2014、2017、全3回
  - 場所：台北
  - 参加者：岩手県釜石シーウェイブスJr、熊本県の小学生ラグビー選手(2017年のみ参加)、台北の小学5-6年生
  - 期間：3泊4日

### 《代表理事》 向山 昌利（中央大学 文学部 准教授）

熊本県出身、元ラグビー日本代表、同志社大学～ワールド～NECグリーンロケッツにてプレー。ニュージーランド及び英国へのラグビー留学に加えて、日本代表バイスカプテン、日本A代表キャプテンとして国際舞台を数多く経験。現役時代から国際交流支援に積極的に取り組み、現役引退の2009年以降、スポーツを通じた国際交流や国際協力の実践と研究に従事している。主な活動実績は、日本各地・タイ・台湾のキッズラグビー交流(13回)、外務省及びスポーツ庁が連携して進める「スポーツ・フォー・トゥモロー」におけるアジアでのラグビー普及育成活動など。震災復興支援を契機に、釜石と台湾の小学生のラグビー交流活動を始め、数年前から釜石のまちづくりとスポーツの関係をテーマとした調査研究を実施中。2023年まで日本ラグビーフットボール協会/国際協力部門長を務め、現在は国際協力機構/技術専門委員(ラグビー)、日本都市センター/自治体におけるスポーツを活用した地域振興に関する研究委員を務めている。

### 《特任理事》 濱島 幸生（総合コンサルティング会社勤務）

横浜在住の現役サッカープレイヤー。ラグビーは旧国立競技場最後の「カンタベリー・ドリームマッチ」に出場、観戦は“雪の早明戦”の頃から。国土構造・都市/地域活性化などの政策立案支援（「東北沿岸域振興ビジョン」、地方自治体「総合計画」、「広域交流圏/地域連携軸構想」、「空港を核とした街づくり構想」など）を数多く手掛け、Internetの萌芽期からコミュニティビジネス分野のコンサルティング、モバイル端末・電子マネー等の先端IT活用やIoT関連の新規事業の立上げに従事。東日本大震災後に復興支援等のプロボノ活動に参画。横浜・野毛山地区で古民家改修(横浜市・まち普請事業の助成)による“多世代・多国籍の交流空間”『CASACO』を共同代表として企画運営。2015年9月の震災復興ツーリズム「くらくらツアー」に参加し、釜石・鶴住居神社の御神輿再建時のお祭りを体験。いま地方創生(地域の持続的な経済活動)やDX3.0(社会課題解決へのデジタル社会基盤の実装)の仕組みづくりに取り組んでいる。